

ノロウイルス等による感染性胃腸炎の予防対策

厚生労働省は27日、ノロウイルス等による感染性胃腸炎の患者が増加しているとして、ノロウイルス感染の予防啓発を求める事務連絡を发出し、ノロウイルス食中毒予防に関するリーフレットを作成しました。

[<http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/03.html#link01-01> よりダウンロード可能]

国立感染症研究所によると、感染性胃腸炎の12～18日の定点当たり報告数は11.39で、過去10年の同時期と比較し、2番目に多い水準となっています。

ノロウイルスの失活化には、エタノールや逆性石鹼はあまり効果がありません。ノロウイルスを完全に失活化する方法には、次亜塩素酸ナトリウム(製品ごとに濃度が異なるので、表示で確認する)、加熱(85℃以上、1分以上)があります。消毒方法等の予防対策は次の通りです。

「ノロウイルスに関するQ & A」については下記のホームページをご参照下さい。

<http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html>

Q:ノロウイルスによる感染性胃腸炎のまん延を防止する方法は？

家庭内や集団で生活している施設においてノロウイルスが発生した場合、ノロウイルスに感染した人のふん便や吐ぶつからの二次感染、ヒトからヒトへの直接感染、飛沫感染を予防する必要がある。毎年、11月頃から2月の間に、乳幼児や高齢者の間でノロウイルスによる急性胃腸炎が流行する。この時期の乳幼児や高齢者の下痢便および吐ぶつには、ノロウイルスが大量に含まれていることがあるので、おむつ等の取扱いには十分注意が必要である。

Q:手洗い方法は？

調理を行う前(特に飲食業を行っている場合は食事を提供する前も)、食事の前、トイレに行った後、下痢等の患者の汚物処理やオムツ交換等を行った後(手袋をして直接触れないようにしていても)には必ず行う。常に爪を短く切り、指輪等はずし、石けんを十分泡立て、ブラシなどを使用して手指を洗浄する。すすぎは温水による流水で十分に行い、清潔なタオル又はペーパータオルで拭く。石けん自体にはノロウイルスを直接失活化する効果はないが、手の脂肪等の汚れを落とすことにより、ウイルスを手指から剥がれやすくする効果がある。

Q:患者のふん便や吐ぶつを処理する際に注意することは？

ノロウイルスが感染・増殖する部位は小腸と考えられる。したがって、嘔吐症状が強い時には、小腸の内容物とともにウイルスが逆流して、吐ぶつとともに排泄される。このため、ふん便と同様に吐ぶつ中にも大量のウイルスが存在し感染源となりうるため、その処理には十分注意が必要である。床等に飛び散った患者の吐ぶつやふん便を処理する時は、使い捨てのガウン(エプロン)、マスクと手袋を着用し汚物中のウイルスが飛び散らないように、ふん便、吐ぶつをペーパータオル等で静かに拭き取る。拭き取った後は、次亜塩素酸ナトリウム(塩素濃度約200ppm)で浸すように床を拭き取り、その後水拭きする。おむつ等は、速やかに閉じてふん便等を包み込む。

おむつや拭き取りに使用したペーパータオル等は、ビニール袋に密閉して廃棄する。[この際、ビニール袋に廃棄物が十分に浸る量の次亜塩素酸ナトリウム(塩素濃度約1,000ppm)を入れることが望ましい。]

ノロウイルスは乾燥すると容易に空中に漂い、口に入って感染することがあるので、吐ぶつやふん便は乾燥しないうちに床等に残らないよう速やかに処理し、処理した後はウイルスが屋外に出て行くよう空気の流れに注意しながら十分に換気を行う。

12日以上前にノロウイルスに汚染されたカーペットを通じて、感染が起きた事例もあり、時間が経っても、患者の吐ぶつ、ふん便やそれらにより汚染された床や手袋などには、感染力のあるウイルスが残っている可能性がある。このため、これら感染源となるものは必ず処理が必要である。

Q:吐ぶつやふん便が布団などのリネン類に付着した場合の処理法は？

リネン等は、付着した汚物中のウイルスが飛び散らないように処理した後、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いする。しぶきを吸い込まないように注意する。下洗いをしたリネン類の消毒は85°C・1分間以上の熱水洗濯が適している。熱水洗濯が行える洗濯機がない場合は、次亜塩素酸ナトリウムの消毒を行う。その際も十分すぎず、高温の乾燥機などを使用すると殺菌効果は高まる。布団などすぐに洗濯できない場合は、よく乾燥させ、スチームアイロンや布団乾燥機を使う。また、下洗い場所を次亜塩素酸ナトリウム(塩素濃度約200ppm)で消毒後、洗剤を使って掃除をする必要がある。次亜塩素酸ナトリウムには漂白作用があるので注意する。

Q:感染者が発生した場合、環境の消毒方法は？

ノロウイルスは感染力が強く、環境(ドアノブ、カーテン、リネン類、日用品など)からもウイルスが検出される。感染者が発生した場合、消毒が必要な場合は次亜塩素酸ナトリウムなどを使用する。ただし、次亜塩素酸ナトリウムは金属腐食性があるので、消毒後の薬剤の拭き取りを十分に行う。

【参考:消毒薬の希釈液の作り方】

表 消毒薬 1,000mL 調製時に必要な調製前・後の濃度と液量・希釈倍数

後 前	0.01%	0.02%	0.025%	0.03%	0.05%	0.1%	0.5%	1%
1%	10mL 100倍	20mL 50倍	25mL 40倍	30mL 33.3倍	50mL 20倍	100mL 10倍	500mL 2倍	
2%	5mL 200倍	10mL 100倍	12.5mL 80倍	15mL 66.7倍	25mL 40倍	50mL 20倍	250mL 4倍	500mL 2倍
3%	3.3mL 300倍	6.7mL 150倍	8.3mL 120倍	10mL 100倍	16.7mL 60倍	33.3mL 30倍	166.7mL 6倍	333.3mL 3倍
5%	2mL 500倍	4mL 250倍	5mL 200倍	6mL 166.7倍	10mL 100倍	20mL 50倍	100mL 10倍	200mL 5倍
10%	1mL 1000倍	2mL 500倍	2.5mL 400倍	3mL 333.3倍	5mL 200倍	10mL 100倍	50mL 20倍	100mL 10倍
20%	0.5mL 2000倍	1mL 1000倍	1.25mL 800倍	1.5mL 667倍	2.5mL 400倍	5mL 200倍	25mL 40倍	50mL 20倍

※1% = 10,000ppm